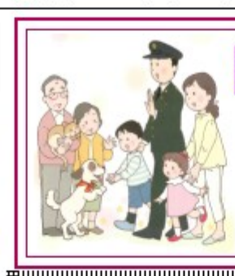
家族会ほっとライン



隊員と家族をつなぐ

海上自衛隊衛生の紹介と取り組みについて

海上幕僚監部　衛生企画室　1等海佐　田中　徹平

はじめに

自衛隊には「衛生」という職域があります。陸上自衛隊の普通科、施設科、海上自衛隊の航海、射撃、航空機整備などと並ぶ専門職域であり、自衛隊の医療を担当します。

前号の陸上自衛隊に続き「衛生」シリーズの第3回として海上自衛隊（海自）の衛生・医療についてご紹介します。

海自の活動

艦艇、潜水艦、航空機などに乗り組み、世界中で活動する海上自衛官。時には、医療機関から遠く離れた場所でも活動します。多くの艦艇では、医療資格をもつ自衛官（衛生員）が乗り組み、隊員の健康管理にあたります。長期の航海には、医官もこれに加わります。

海自の衛生部隊

全国10カ所の自衛隊病院のうち、自衛隊横須賀病院と自衛隊呉病院は海上幕僚長の監督を受けて運営しています。令和4年3月に大湊・舞鶴・佐世保の自衛隊病院が廃止されましたが、この機能は大湊・舞鶴・佐世保の各衛生隊に移管され、診療を実施しています。

このほか、海自の部隊に合わせ20カ所余りの医務室が置かれ、診療、健康診断、予防接種など保健衛生に係る業務を行っています。

次に、潜水医学実験隊を紹介します。海自は潜水艦の行動や、潜水作業を伴う任務がありますが、そのような任務での水圧や気圧などの変化は人体に少なからず影響があります。これを研究する分野を「潜水医学」といい、潜水医学実験隊では、この分野の研究やご紹介します。海自は潜水艦の運営を支える衛生以外の職域の隊員（事務官、経理・補給・ボイラー・車両などの職域の自衛官）がいます。

衛生職域隊員のうち、最も人数が多く、海自隊員にとって身近で接する機会が多いのが「衛生員」です。

衛生員の多くは准看護師資格を持ち、病院、衛生隊、医務室で、あるいは艦艇に乗り組んで勤務し、隊員の健康管理、訓練などでの救護、医薬品管理等の業務に従事するほか、医官の診療補助や看護も行っており、隊員にとって頼れる存在です。さらに、衛生員の一部は、救急救命士、臨床検査技師、診療放射線技師等の国家資格を持っていて、これを生かした業務を行っています。

海自メディカルコントロール態勢

海自の艦艇は、時には医療機関から遠く離れた場所で活動し、1回の航海が長く、次の港に入るのは数日後ということもあります。

そのようなときに体調を崩したらどうするか。医官が乗り組むなど、艦艇すべてに十分な医療態勢があれば理想的ですが、そうもいきません。

海自では、医官不在の艦艇でも隊員が安心して勤務できる態勢（海自メディカルコントロール態勢）を構築しています。

これは傷病者が艦艇で発生した際、離れた病院にいる医官の指示の下、衛生員が一部の医療行為を実施できるようにしているものです。艦艇には必要な薬など医療資器材を整備し、衛生員は、定期的な講習を受けるなど技量を維持しています。そして、救急患者が発生した場合には、衛生員がこの態勢の下、応急処置を実施した上、速やかに医療機関に搬送できるよう、艦艇を急ぎ近くの港に向け、または艦艇搭載のヘリコプターで患者を搬送します。

海自衛生の取り組み

戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境の中、令和4年12月に戦略が策定されました。この中で、自衛隊衛生は「隊員の生命・身体を救う組織に変革する」とされています。これを受け、海自においては、第一線で医師の指示を受け緊急救命処置を実施する第一線救護衛生員の養成、艦艇での外科手術を含む洋上医療の強化に向けた取り組みを実施しています。

このほか、自衛隊横須賀病院の建て替えも予定されています。新しい病院で隊員・ご家族、地域の方々の診療にあたり、また貴重な診療経験を通じ海自の医療従事者の技量を向上させることで、さらに質の高い医療を提供します。

おわりに

海自の医療は、海自の一部として世界中の海で活躍するすべての同僚が、心身ともに健康を保てるよう全力でサポートする任務を担っています。海自の精強・即応に資する、多様な任務に対応する海自の医療をつくり、海自隊員に安心して任務に専念してもらえるよう、医官・歯科医官・薬剤官・医官・歯科医官・薬剤官・衛生医事幹部・心理幹部・衛生員と呼ばれる自衛官、看護師など各種医療資格を持つ防衛技官、病院や衛生隊の職域の隊員（事務官、経理・補給・ボイラー・車両などの職域の自衛官）がいます。

海自の医療を支える人とその教育

医官・歯科医官・薬剤官・衛生医事幹部・心理幹部・衛生員と呼ばれる自衛官、看護師など各種医療資格を持つ防衛技官、病院や衛生隊の職域の隊員（事務官、経理・補給・ボイラー・車両などの職域の自衛官）がいます。

衛生職域隊員のうち、最も人数が多く、海自隊員にとって身近で接する機会が多いのが「衛生員」です。

衛生員の多くは准看護師資格を持ち、病院、衛生隊、医務室で、あるいは艦艇に乗り組んで勤務し、隊員の健康管理、訓練などでの救護、医薬品管理等の業務に従事するほか、医官の診療補助や看護も行っており、隊員にとって頼れる存在です。さらに、衛生員の一部は、救急救命士、臨床検査技師、診療放射線技師等の国家資格を持っていて、これを生かした業務を行っています。

海自メディカルコントロール態勢

海自の艦艇は、時には医療機関から遠く離れた場所で活動し、1回の航海が長く、次の港に入るのは数日後ということもあります。

そのようなときに体調を崩したらどうするか。医官が乗り組むなど、艦艇すべてに十分な医療態勢があれば理想的ですが、そうもいきません。

海自では、医官不在の艦艇でも隊員が安心して勤務できる態勢（海自メディカルコントロール態勢）を構築しています。

これは傷病者が艦艇で発生した際、離れた病院にいる医官の指示の下、衛生員が一部の医療行為を実施できるようにしているものです。艦艇には必要な薬など医療資器材を整備し、衛生員は、定期的な講習を受けるなど技量を維持しています。そして、救急患者が発生した場合には、衛生員がこの態勢の下、応急処置を実施した上、速やかに医療機関に搬送できるよう、艦艇を急ぎ近くの港に向け、または艦艇搭載のヘリコプターで患者を搬送します。

海自衛生の取り組み

戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境の中、令和4年12月に戦略が策定されました。この中で、自衛隊衛生は「隊員の生命・身体を救う組織に変革する」とされています。これを受け、海自においては、第一線で医師の指示を受け緊急救命処置を実施する第一線救護衛生員の養成、艦艇での外科手術を含む洋上医療の強化に向けた取り組みを実施しています。

このほか、自衛隊横須賀病院の建て替えも予定されています。新しい病院で隊員・ご家族、地域の方々の診療にあたり、また貴重な診療経験を通じ海自の医療従事者の技量を向上させることで、さらに質の高い医療を提供します。

おわりに

海自の医療は、海自の一部として世界中の海で活躍するすべての同僚が、心身ともに健康を保てるよう全力でサポートする任務を担っています。海自の精強・即応に資する、多様な任務に対応する海自の医療をつくります。

家族会長奮闘戦記 76

魅力ある家族会とするために

東京都自衛隊家族会　会長　森山　尚直

皆さま、こんにちは。

本年度から会長を務めております森山尚直と申します。私は陸上自衛官を退官して平成29年9月に目黒区家族会に入会し、令和3年度に東京都の理事となり、昨年度は事務局長として会の事務を担当しました。また、それと共に、本部での業務執行理事として「おやばと新聞」の編集などを担当しています。

東京都の概要

私は、東京都自衛隊家族会の第3代目の会長ですが、家族会の前身である昭和38年7月19日に結成された「東京都家族会連合会」の皆崎民男会長からは7代目となり、今年は、ちょうど60周年の節目の年となります。

東京都は、区部、多摩地域および島嶼部に大別され、現在、41個の地区家族会で約1400人が活動中です。

会長就任に当たって先輩会長からいただいたご助言は「各地区会の総会・懇親会に小まめに参加し、多くのことを学ぶこと」でした。このことを肝に銘じ、可能な限り、多くの方にお会いしてお話をうかがい、会員の方々のお気持ちを大切にした会の運営に努めたいと思っています。

会の魅力について

昨年度の地域協議会のテーマは「魅力ある会」でした。参加した南関東地域協議会では、会員の方々が会に魅力を感じるのは、「適時に欲しい情報を入手でき、会の活動への参加を通じて充実感を得た時ではないか」との意見が多く出されました。

本年6月の自衛官候補生課程の修了式で自衛隊家族会をPRするため、最近入会された会員の方にもご参加いただきました。祝賀会の際「息子はコロナ禍の入隊で、このような機会は無かったので、今日は本当に楽しい一日となりました」とお話になりました。コロナ禍で体験できなかった大切な時間を追体験してもらうことになり、お誘いして良かったと思いました。

情報格差への対応

自衛隊家族会以外のボランティア活動にも参画して感じることは、情報格差（デジタル・デバイド）への対応です。

情報伝達にFAXとメールを併用している会や、会によっては「メールは見ないのでドロップボックスにしてもらいたい」との会員の方もいらっしゃいます。

東京都家族会も月報を発刊していますが、地区会長の約半数の方には、郵送でお送りしています。郵送で受け取った方は「おやばと」の配布の際に、その月報を同封されています。しかし「おやばと」を手配りではなく、郵送などにする方は、送料の問題などから2カ月分をまとめて送付している方も多く、タイムリーな情報提供には限界があります。

この問題の解決のために、東京都もホームページの開設を検討しています。しかしながら、ホームページを見た人のみが情報を入手し、ホームページを見られない人は情報を入手できないのでは、まさに情報格差による一体感の崩壊にもつながると思っています。どうやれば、全ての会員の方々に欲しい情報を適時に提供できるか、会員の皆さま方と知恵を出して参りたいと思っています。

高年齢化への対応

定年年齢の引き上げで、現役としてフルタイムのお仕事を続けておられる方々が増え、ボランティア活動の会合は、夕方の時間帯や土日の開催が多くなっています。

また、事務局の業務負担をいかに軽減するかも大きなテーマです。東京都家族会もどのように対応していくかについて、検討を続けています。現在、具体的な解はありませんが、事務局業務に携わることで、多くのことを学び充実感と喜びを得たと感じてもらえること、その笑顔が大切だと思っています。

課題ととらえれば負のイメージですが、やれることはまだまだあると正のイメージを大切にし、東京都の会員の皆さまと力を合わせてより一層楽しい会にしていきたいと思っています。

入間（埼玉県）

4年ぶりの入間基地納涼祭で自衛隊PR

43000人が夜空の大輪を楽しむ

7月26日、航空自衛隊入間基地（基地司令・小野打泰子空将補）で4年ぶりの基地納涼祭が開催されました。

入間市自衛隊家族会は、盆踊り会場に設置された埼玉地方協力本部の広報ブースで自衛隊PRの支援を実施しました。

現在、全国地方協力本部で「陸海空自衛隊サマー・フレンドシップキャンペーン」を実施中です。

本会としては7月20日の入間市駅街宣以来となる2回目の協力です。

当日は、埼玉県下で今夏の日本最高気温39・7度が観測されるほどの猛暑でしたが、それでも開門と同時に大勢の家族連れが次々と入場しました。埼玉地本マスコットキャラの「サイポン」の隣りでPR活動の支援をしましたが、あっという間に、「サイポン」と写真を撮りたい家族連れに囲まれました。そんな中、募集資料の前で佇む親子（中学生）がいたので声をかけたところ「自衛隊のパイロットに絶対なりたい」とのこと。資料を渡してしばらく話をしましたが、志の高さには感動しました。受験まではまだ何年かありますが、せひとも夢を実現してほしいと思いました。

「サイポン」の横でPR

納涼祭の最後はやはり打ち上げ花火。4万3千人の観衆が4年ぶりに夜空に昇る大輪の光の華を楽しみました。

（入間市自衛隊家族会　事務局長　小澤　和仁）

大観衆を魅了した光の華

新発田新潟（新潟県）

夏祭りでミニ電車の試乗会を企画

行列ができるほどの盛況を博す

新発田地区（吉田会長）、新潟地区（刈屋会長）の両協議会は7月21日、航空自衛隊新潟分屯基地で行われた夏祭りに「ミニ電車の試乗会」を企画し祭りを盛り上げました。

これは、新潟県家族会の早川会長を通じて、分屯基地より依頼があり実現したことで、かねてから協議会同士が合同で取り組める活動はないものかと検討していたことでもあり、喜んで実施しました。

コロナ禍で行われなかった夏祭り3年分を払拭するかのような晴天に恵まれ、開始時間の13時から子供連れのお母さんやご家族が絶えることなく、試乗に訪れました。

17時頃からは、行列ができるほどの盛況で、中には何度も並んでは試乗する子供がいるなどの人気ぶり。お父さんお母さんに手を振って笑顔で試乗する子供たち、それをスマホやカメラで撮影する大人たちなどで、和やかな雰囲気に包まれました。

終了時間の18時になっても行列がなくならず、並んでいた人を最後に終電運行を行いました。

乗車人員は「子供193人・大人62人・合計255人」からご試乗をいただきました。祭り行事にふさわしくご家族揃って大いに楽しんでもらえました。目標の一つ「自衛隊を身近に感じてもらい、招来の備・私へのイメージ『自衛官』へとつながる意識付け「育てる募集」になってもらえればと願っています。

終電に間に合わなかったご家族さま、ゴメンナサイ！次回に期待して下さいネ!!

（新潟県自衛隊家族会　事務局長　鈴木　勝実）

笑顔で試乗する子供たち

鹿屋（鹿児島県）

空自高畑山分屯基地の研修

宮崎名物チキン南蛮などに舌鼓

鹿屋市自衛隊家族会（石川和治会長）は8月2日、宮崎県串間市の航空自衛隊高畑山分屯基地（司令・中嶋明2等空佐）の研修を実施しました。研修は、会長以下、理事や会員総勢34人が参加しました。

中嶋司令から基地の役割や任務などの説明を受け、また、隊員の募集が困難な状況にあるため、隊員の募集広報に協力してもらいたいといった主旨のお話がありました。

参加者は、説明を受けた後、基地内の施設や装備品などを見て回りました。その都度質問したり写真を撮ったりして真剣に研修に取り組んでいました。

研修終了後は、昼食となりました。この日のメニューは、なんと宮崎名物のチキン南蛮と冷や汁、しかもマンゴーのデザート付きで、こんな豪華な食事に参加者は「美味しい、食べきれない」などと話しながら舌鼓を打っていました。

食事後、基地内売店でお土産品を買うなどしてくつろぎ、中嶋司令をはじめ隊員に見送られながら、本研修にとても満足し、基地を後にしました。

（鹿屋市自衛隊家族会　事務局長　白石　和彦）

豪華な食事に舌鼓

青森県

青森自衛隊ねぶた、4年ぶりに出陣

三国志誓（ちかい）、ねぶた師有賀1壱、最後の制作

青森自衛隊ねぶた協賛会の大型ねぶたが8月2日、本年で58回目、4年ぶりに青森ねぶた祭に出陣しました。今年のねぶたの題目は「三国志」。蜀・魏・呉による三国時代の物語で、志のために共に戦う誓いを立てている劉備、関羽、張飛の三人と、国と国家のために戦う自衛隊の姿を重ね合わせたものです。

青森自衛隊ねぶた協賛会は、陸上自衛隊青森駐屯地に所在する部隊を基幹として昭和35年から参加していましたが、令和2年から3年間、コロナ禍と自衛隊の災害派遣などが重なり制作を見送っていました。

制作にあたったのは、第5普通科連隊に所属する有賀義弘1等陸曹で今年が最後の制作となり、来年からは同連隊の小財貴2等陸曹が引き継ぐ予定です。

本年5月に青森市内のラッセランドにねぶた小屋が開設されると、青森駐屯地所在部隊の隊員が毎日通って製作にあたり「紙はり」という段階では青森市自衛隊家族会の会員も手伝いました。

また、期間中の5日間、青森ねぶた祭には、毎日約360人、延べ約2200人の隊員が参加しました。

8月4日には、田尻第9師団長とともに青森県自衛隊家族会野呂会長も参加し、隊員とともに短い津軽の夏を盛り上げました。

（青森県自衛隊家族会　会長　野呂　和生）

雄大な青森自衛隊ねぶた

高知県

潜水艦「けんりゅう」入港を歓迎

高知県内で20年ぶりに潜水艦を一般公開

7月15日、高知県自衛隊家族会（原洋吾会長）は、第1潜水隊群第3潜水隊潜水艦「けんりゅう」（艦長・牧園大志2等海佐）入港を歓迎・激励しました。

潜水艦「けんりゅう」は、15日から17日の間、高知新港において一般公開されました。高知県内での潜水艦の一般公開は20年ぶりで、県内外から3日間で1200人以上が来場、梅雨明けを思わせるような青空の中、潜水艦見学に長蛇の列ができていました。

また、高知県家族会女性部は、3年ぶりに売店を開設して自衛隊グッズなどを販売して、高知地方協力本部（本部長・堀川佳紀1等陸佐）の艦艇広報に協力するとともに、会員相互の親睦を図りました。

なお、今回の艦艇広報に参加した家族会員は、艦艇入港歓迎・激励活動は家族会入会の魅力の一つであることを再確認できました。

（高知県自衛隊家族会　事務局長　宇田　俊作）

潜水艦見学に長蛇の列

島根県

県内各駅での募集広報イベントに参加

学生から、元気なパワーをもらう

島根県自衛隊家族会は7月3日、島根県の主要各駅にてウエットティッシュの配布に協力しました。

家族会員は、安来駅を始め県内6駅に17人で参加しました。

私が担当した松江乃木駅では、5校以上の学生が乗降するため、広報官2人とで配りましたが、すごい勢いで降りてくる学生の足に、追いつかず、ウエットティッシュも途中で無くなり、昨年より残念な感じがしました。手にした学生は、友達と眺めていたり、早速QRコードを読み取ったりとさまざまでした。

また、揖屋駅担当の東出会支部長の話として、自衛官現役時代に千葉県船橋市にある津田沼駅で同じように広報活動をしたものの、ほとんどの学生さんが指否、受け取ってもすぐ先のごみ箱に捨てられていたそうです。今は全員が受け取ってあいさつを交わしてくれるということでした。時代の流れなのか、土地柄なのか、好意的に受け取ってくださる学生が多い気がしました。

朝から、元気なパワーをいただきました。来年もまた一緒に広報いたします。

（島根県家族会　会長　佐藤　孝子）

安来駅にて募集広報

元気にしています。

陸上自衛隊

国民から頼られる自衛官として頑張ります
同期と助け合いながら日々精進しています
日本を守る力となるため仲間と訓練に励みます
家族の有難さがよく分かりました。目標は恩返し！
家族と国民を守る立派な自衛官を目指します

海上自衛隊

常に学ぶ姿勢を忘れずに努力していきます
日々誠実に仕事に取組んでいきます
折れない心、負けじ魂を胸に精強な自衛官を目指します
心身ともに成長した姿を見せられるよう日々精進します
今できることに全力を尽くす

航空自衛隊

限られた教育期間同期と訓練に励んでいます
同期と楽しくやってます。寂しくないよ！
誇れる父になる為に今日も1日ちばるよ～！
今の自分に誇りを持って仕事ができてます
最高の同期、同僚ができ、充実してます

教育隊学生からのメッセージ

おやばとでは今年も陸海空自衛隊の教育機関に入校中の学生の声を集めてみました。新しい環境で同期と訓練に取り組む前向きなメッセージが届きました。家族を思う気持ちにも心打たれます。

浦山　雅行	福島県福島市	工藤梨緒奈	北海道札幌市
丹羽　圭義	愛知県犬山市	今井結佳子	香川県高松市
吉沢　開	長野県宮田村	太田　一平	沖縄県浦添市
山内　結衣	愛媛県松山市	大石　稜也	埼玉県入間市
尾川　達磨	長崎県長与町	大塚　結	三重県津市
竹島　晴花	埼玉県さいたま市		
近江　由隆	群馬県館林市		
高松　和希	石川県金沢市		
山本　康平	香川県三豊市		
迫　ひより	鹿児島県鹿屋市		

編集後記

▽1面、中ロ海軍が日本海で連携した共同訓練を実施しております。わが国は、厳しい安全保障環境に鑑み、防衛力の抜本的強化を図り、抑止力を高めつつあります。

▽3面、昨年閣議決定された戦略三文書公表後、初めての令和5年版防衛白書について、概要を掲載しました。1面と併せてご精読ください。

▽8面、各地の駐屯地・基地で、夏祭りなどの行事が4年ぶりに開催されています。家族会が駐屯地見学や夏祭りなどの行事支援を通じて、自衛隊の良き理解者・協力者となり、募集広報の一助になればと、願っています。